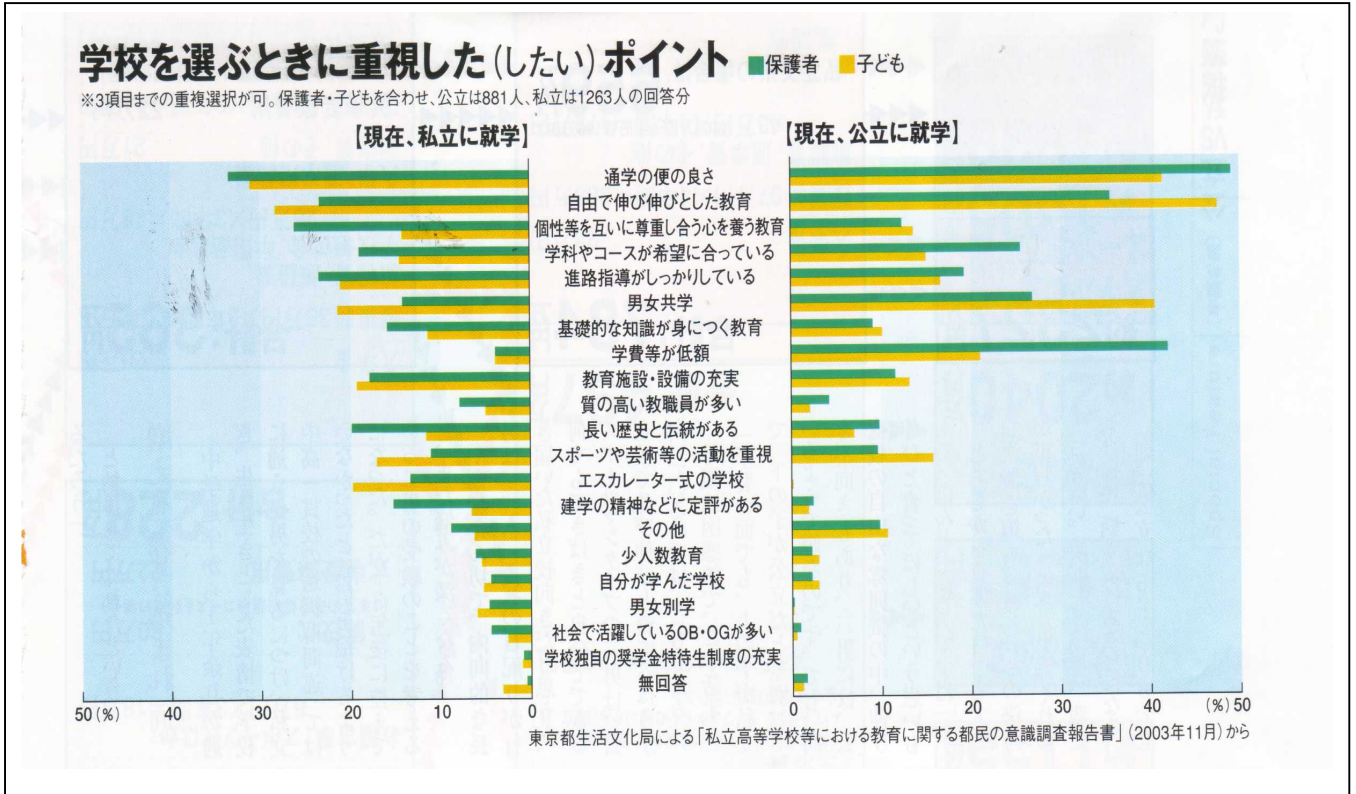


## 志望校の賢い選択

下の棒グラフは、東京都が公立・私立それぞれの学校に通っている子供とその親を対象に、学校選びの際に重視した点についてアンケート調査した結果である。

これによると、公立の場合は『通学の便の良さ』『学費等が低額』といった利便性や経済的な理由が特に保護者の間で高く、子供で最も多かったのは、『自由でのびのびとした教育』で47.6%にも上った。

一方、私立派では『進路指導がしっかりしている』『教育施設・設備の充実』『建学の精神などに定評がある』などの項目で公立派を上回った。



一口に公立、私立と言っても、中身は千差万別。これまで『均質』をうたい文句にしていた公立校も、最近では学区制撤廃による学校選択の自由を開始した都道府県も多く、中高一貫校の新設、進路指導重点校の設置など、選択の幅が広がる傾向にある。

私立校に至っては、その違いもさらに多種多様で、中高一貫教育による無駄をはぶいた指導や補習・講習での面倒見の良さ、大学進学率の高さ以外に、公立校並みに自由な校風を売り物にする学校もあれば、勉強プラス人間教育に力を入れている学校、卒業時に日本とカナダ両方の高校卒業資格を得られる全寮制の学校など、その違いの多さに自分の時代の感覚がもはや通用しないと驚く親も多い。

志望校を選ぶ際十分吟味しないと、事前に描いていたイメージとぜんぜん違っていったということがあがる。中学から私立校に進学した生徒や、私立・公立を問わず高校生に進学した生徒達の中で、学校になじめなくて退学する例も少なくなく近年問題になっている。

ヨミウリウイークリーより、資料文章一部抜粋

せっかく合格したと思ったら、中退されたり引きこもりになってしまったりされては、親としては泣くに泣けない。志望校選択で失敗しないためには、学校説明会や見学会に参加し、設備や雰囲気、建学の精神、卒業生の進路先のチェックはもちろん、文化祭や体育祭に行ったり、通常のなんでもない日の放課後、校門から出てくる生徒達の様子を見に行ったり、さまざまな角度で吟味するに越したことはない。もっとも、合格してもらわないことには意味はないが・・・